特 集　地域おこし協力隊 in 東和・岩代

よそ者だから　できること

二本松市では、地域おこし協力隊が5人、道の駅を拠点に活動しています。道の駅ふくしま東和に1人、道の駅さくらの郷に1人、道の駅「安達」和紙伝承館に3人です。

▲地域の方との距離を縮めたいという思いから発行している「おにぎり新聞」。手書きで書かれた新聞は、道の駅などに設置。住んでみて面白かったことや地方生活についてなど、移住者だから見えることなどを伝えている。当初100枚だった印刷枚数が、今では1,200枚に増刷。岩代地区では、この他に「ちょいいわ」を発行。

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は平成21年度に国がつくった制度です。人口減少や高齢化が進む地方が、都会から若者などの移住希望者を呼び込み、地域協力活動を行ってもらうことで、地域の活性化に貢献してもらうという仕組みです。

平成27年度末現在、全国673自治体で2,625人の隊員が活動しており、制度が始まった年と比較すると、およそ30倍となりました。

人口減少と高齢化が進む本市でも、移住者の視点を生かして地域力の維持・強化を図り、その定住を図ることを目的に、平成26年度より協力隊員の募集を開始しました。

隊員は各自治体で採用され、おおむね1年以上3年以下の任期期間中、地域づくり支援や伝統文化継承など、幅広い分野で活動します。

東和と岩代で活動する隊員は、地域の中の課題をみつけ、その解決に向けて、地域の方たちと一緒に活動することを目的としており、和紙伝承館で活動する3人は、上川崎和紙という伝統文化継承を目的として活動しています。

出来上がった都会より人とつながる暮らしがしたい

就農フェアで東京などに行くと、地方で暮らしたいと考える若者が増えているそうです。

地方の若者なら一度は憧れる都会の生活。しかし都会に住む人の中には、人とのつながりを大切にでき、豊かな自然環境や歴史・文化の中でもう一度〝自分づくり〟をしたいと「地方移住」を考えている人も増えています。

地域の人と一緒に課題を解決

自治体が行う協力隊制度。名称だけ聞くと、地域を活性化させるスペシャリストが来てアドバイスをしてくれると思われがちですが、決してそうではありません。それは、都会からの移住者が地域の中に入り込み、よそ者の視点から地域おこしの協力をする草の根運動のようなものだからです。

今月号では、東和地域と岩代地域で活動する2人の協力隊員を紹介します。まだまだ認知度の低い協力隊。2人に話を伺うと、「協力隊の仕事をすればするほど、私たち1人では何もできず、地域の方々の協力が無いと成り立たない仕事ばかり」と言います。また、「私たちはすごい人でも何でもないので、写真は協力してくれるみんなと一緒のものを使ってください」と言われました。

土地勘が無く、知り合いがいない中で地域に飛び込んできた2人の活動の様子を紹介します。

▲道の駅さくらの郷の向かいにある通称「ひとめぼれハウス」。地域の方の善意でこの小屋を貸してもらい、しかも事務所内の机や椅子、プリンターなどは地域の方からの寄附。イベント打ち合わせ、写真展や交流会などもここで行っている。（写真㊤が武藤さん、㊦が高木さん）

一緒に活動してくれる人を見つけるのが大変でしたが、今はたくさんの人に支えられていると実感できる日々です

東和地域で活動中

高木（たかぎ）　史織（しおり）さん　（H26.4～）

出身地：栃木県宇都宮市

前住所：東京都　（Ｉターン者）

東京で学生時代に環境ＮＰＯのボランティア活動をしていて、学校卒業後そのまま職員となり活動。その後、協力隊員として東和地域へ。道の駅ふくしま東和を拠点に現在活動しており、移住サポートや地域イベントの企画・運営などを行っている。特技はイラストを描くこと。

▲東京で行われた就農フェアをきっかけに２人が東和へ移住。受け入れをサポートしました

▲「棚田を守りたい」農家と「米をつくりたい」若者のコラボで、米作りをしています

▲夏祭りのあと協力者との集合写真。地域住民などおよそ300人が楽しんでくれました

『東和に住みたい』が協力隊になるきっかけに

初めて東和地域に来たのは今から4年前の２０１２年。東日本大震災の後、福島がどうなっているのかを自分の目で確かめてみたいと思ったからでした。

その時出会った同い年の農家の方と大根の間引き作業などをしているうちに、東和の景色や、地域の方々のひたむきに頑張る姿に心を動かされたのを、今でも鮮明に覚えています。東和の人たちの「前向きさ」「生きる知恵」をもっと知りたいと思うようになり、「私もここで鍛えてもらおう」と東和へ住む決意をしました。

移住を決めてから仕事を探していたとき、東和の道の駅に相談したところ、「地域おこし協力隊」の制度を紹介していただき、働き始めました。

小さく始まり大きく広がる協力隊の仕事

今年の夏、地域の人たちが「お盆の帰省客が地元を懐かしむ場が欲しい」「夜に楽しめる場をつくりたい」と言っていたのが気になっていた私は、夏祭りを企画しました。その名も「やばせ！里山の夏祭り」。

企画をして取り組んではみたものの、最初は不安ばかりでした。しかし東和地域の人たちは「何でもやってごらん」といつも私の挑戦を後押ししてくれるので、今回もその言葉に支えられ、挑戦することができました。

いざ協力者探し。最初は、お祭りが好きそうな人を探しては、一人一人声を掛けての毎日でした。そんな時、紹介された戸沢地区の方に協力をお願いすると、この地区では30年近く祭りが無かったこともあり、多くの地区の方々も祭りの開催に賛同してくれました。

しかも櫓（やぐら）は針道地区の町若連から、お囃子（はやし）は太田・針道・木幡地区からと、どんどん協力の輪が広がっていき、夏祭り当日には予想以上に人が集まり、「楽しかった！」と言う声がたくさん寄せられました。東和地域のいざという時の団結力のすごさを、改めて実感させられた夏祭りでした。

協力隊卒業を目の前にして

今まで支えてくれた皆さんへの感謝の意味も込めて、私の協力隊としての3年間をまとめたマンガ（小冊子）を作ろうと思っています。この土地の良さを伝えたり、これからこの地で協力隊になりたいと思う人や移住者の勧誘の時などに、少しでも役立ててほしいと思っています。

この地には、季節で生きる田舎の暮らしがあり、これは都会には無いものです。そんな豊かな時間の流れが私には合っていて、都会にいた頃より、のびのびと自由に働けている実感があります。また私と同じように、この時間の流れを求める都会の人が多いと思います。

協力隊終了後の進路については今いろいろと考えていますが、もしこの地に住むことになったら、地元の人の感覚と、移住者の気持ちをつなげる橋渡しができればいいなと考えています。

家探しから始まった協力隊生活。前へ進むには必ず誰かの助けがあった…その感謝の気持ちが、私の活動の原動力です

岩代地域で活動中

武藤（むとう）　琴美（ことみ）さん　（H26.10～）

出身地：二本松市
前住所：埼玉県　（Uターン者）

東日本大震災後のボランティア活動がきっかけで、東京や埼玉で教育関係のＮＰＯ法人に従事し、その後に協力隊員として岩代地域へ。道の駅さくらの郷を拠点に現在活動しており、ウェブサイトの制作やイベントの企画・運営などを行っている。カメラで写真を撮るのが趣味でもあり特技でもある。

▲初めて企画した「寺こん」。お寺の住職さんたちと入念な打ち合わせ

▲イベントのチラシやホームページ、道の駅で販売する商品ラベルのデザイン・制作など、できることは何でもやります

▲企画した「いわしろ塾」には、延べ170人の子どもたちが参加しました

思い出が詰まったこの地域を人の心に残していきたい

旧二本松市出身の私ですが、現在は岩代地域へ居住し活動しています。それは子どもの頃から岩代地域の印象がとても良かったからです。夏休みは毎日のように岩代図書館に自転車で通っていたので、地域の人たちもいつしか私に声をかけてくれるようになり、岩代の良い印象がいつまでも忘れられませんでした。

協力隊になる前に住んでいた埼玉で、地域内で子どもが役割をもてるよう、地域の大人たちと一緒に活動していたことがあります。活動を通して、子どもたちが自分のいる街に誇りを持ち始めていることに気づき、生活と土地が密接していることを肌で感じました。

「私は子どものころ、どんな生活していただろう」

そう考えたとき、岩代地域はとても楽しかったことを思い出し、この地で私ができることがあるのかなと考えるようになりました。『あのステキな地域を、これからも人に残すお手伝いがしたい。』そう思った私は、岩代へ移住することを決意し、現在に至っています。

地域の人の協力で成り立つ仕事

協力隊となった1年目は、岩代地域のことを教えてもらおうと、私はとにかく色々な人を訪ねて回りました。時には詐欺に間違われることもありながら(笑)。でも2年目となった今年は、人脈も増え、何かをしようとしたときに、何を、どこで、誰に頼めば良いのかが分かるようになりました。

今年の8月に初めて挑戦した「夏休みいわしろ塾」。子どもたちの夏休み期間中に、岩代地域の小学生を集めて、陶芸や手足を使って絵を描いたりなど、ただ子どもを預かる場所としてではなく、毎回テーマをもって取り組みました。

きっかけは、地域の方々が「子どもが少なくなった」と話していたのを思い出し、子どもの数が多い少ないではなく、今、子どもたちにしてあげられる精一杯のことがしたいと思ったからです。

この活動でも、たくさんの地域の方に協力してもらい、改めて私一人ではどうにもならず、地域の人たちの協力無くしては協力隊の活動は成り立たないものなのだと痛感しています。

いつまでも「岩代の人」でいたい

私から見える岩代地域は、歴史や祭りがあり、天然記念物や温泉、道の駅まである資源豊富な土地です。そういった財産を地域の人たちが守ってきたから今があり、この財産を今後どうやって守り、広げていくかを一緒に考える仕事ができていることは、とても幸せなことだと思っています。

私はこの地域で、とても充実した時間を過ごしています。協力隊の任期満了まであと約1年。協力隊という肩書きがなくなっても、いつまでも「岩代の人」でいたいと強く思うようになりました。

大好きなこの地域をさらに活気付けられるよう、残された1年、精一杯頑張ろうと思います。

二本松市結婚推進支援事業

山こん

～ 一度知ったら こでらんにぃ！ ～

東和地域と岩代地域の協力隊員２人のコラボ企画。昨年に続いて２回目となる今回は、さらに趣向を凝らした内容が盛りだくさん。ぜひご参加ください。

日　時　11月19日（土）≪募集期限11/16≫
12月３日（土）≪募集期限11/28≫
※両日とも午後１時30分から７時までの開催で１回のみの参加も可能です。

内　容　地元素材を使った手作りスイーツやコーヒー、ワイン、お食事などをご用意し、ゆったりとしたお互いを知る時間を作ります。

事前セミナー
男性：理容師によるヘアセット、マナーアップ講座
女性：美容師によるヘアメイクセット

集合場所　ＪＲ二本松駅

参加資格　20歳から45歳の独身男女
※男性は二本松市在住もしくは市内に勤務されている方

定　員　男女とも各８人※定員になりしだい締め切り

参加料　男性3,000円、女性2,500円

申込方法　氏名、年齢、住所、電話番号を記入の上、下記までお申し込みください。

◎問い合わせ・申し込み…
ＮＰＯ法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
（道の駅ふくしま東和）☎(46)2116
メール：onigiri.fukuniho@gmail.com
または下記ウェブサイトからも申し込み可能

戸沢地区にある羽山りんご園は、高木さんの好きな場所の一つ。初めてここのリンゴを食べた時の感動は、今でも忘れられないそうです

小浜の藤町地区の坂は、子どもの頃は図書館へ、今はさくらの郷や百目木地区などへ。毎日この道から「楽しい！」が始まっている

地域が人を育てる

協力隊員とは、何か特別な能力や技術をもっている人ばかりではありません。都会から田舎へ移住し、土地勘も知り合いもゼロからのスタート。しかも1人でできる仕事はなく、地域の人たちと一緒に行動しなければ何も成し遂げられない活動の中で、彼女たちは不安を払拭するため、必死に走り続けています。

２人が発行する「おにぎり新聞」の中に、地域の人たちと触れ合う中で生まれた名言集というコーナーがあります。

『おらは優秀でねぇから、人と同じように働いちゃだめなんだ。』

この言葉は、岩代地域に住む80代のおばぁちゃんの言葉です。

今回取材した協力隊員の話を聞いていると、彼女たちも心のどこかで、このおばぁちゃんと同じように思いながら活動しているような気がします。

今回紹介した協力隊員の２人は、地域の方の優しさやたくましさといった「人」に引かれてこの地へ来ました。

人を育てるのは、その土地の環境。私たちにとっては日常の生活の場でしかない環境も、協力隊２人の目を通して見ると、実はこの土地の大きな財産なのだと気付かされます。

これからも市では、地域おこし協力隊員を募集していきます。皆さんが住んでいる地域で、困っていることや、今までやりたくても実現できなかったアイデアなどを、一緒になって協力隊員がサポートしますので、まちで会ったらぜひ声を掛けてあげてください。

地域おこし協力隊と活動し、このまちの新たな可能性を、皆さんも一緒に探っていきましょう。

地域おこし協力隊の活動が見られます

↑ホームページの画面

協力隊員の活動やイベント情報、地域の隠れた魅力などを発見できるホームページが開設されています。ぜひご覧ください。

http://fukuiwa.jimdo.com